

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学 校 名 大 田 区 立 赤 松 小 学 校
(※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒145-0062

東京都大田区北千束 2 - 3 5 - 8

E-mail akmt-e1@educet.plala.or.jp

Website http://academic2.plala.or.jp/akmte/

幼児児童生徒数 男子 231 名 女子 225 名 合計 456 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳 ~ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度+活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、日々の授業において、児童の主体性を生かした問題解決的な学習や体験的な学習を重視し、永年にわたって国や都、区の指定を受けた研究校としての実践を着実に積んでおり、平成 24・25 年度は大田区の研究推進校の指定を受け、理数教育の充実を中心に授業の質的改善に取り組んできた。26 年度からは ESD 教育を研究の柱とし、平成 28 年度からは新学習指導要領の理念を鑑み、ユネスコスクールの責務である ESD の充実に焦点を絞り、研究主題を「学びを創る～ESD の充実を通して～」と掲げ、質の高い学びの創造を目指して取り組んでいる。生涯を通じて行われる ESD の基盤として、小学校教育では持続発展可能な社会を構成するための『価値観』と『体系的な思考力』の萌芽と伸長を促すことが重要であると考え、まず教育活動全体を俯瞰し、育成してきた「生きる力」と『価値観』と『体系的な思考力』に視点を当てて整理した。

さらに、生きる力と体系的な思考力を計画的かつ系統的に育成するために、学年毎の『ESD カレンダー』や「ESD 系統表」を作成し、実践と更新を行っている。平成 28 年度は、「教育活動の ESD の観点での価値付け」「アクティブ・ラーニングの充実」「『価値観』を育む授業の創造」を研究のねらいとし、追究してきた。平成 29 年度は、児童一人ひとりが身に付けた『価値観』と『体系的な思考力』を基に、児童自身がそれらに関連付け活用しながら自己を変容させていく教育活動を追究している。

また、平成 28・29 年度大田区教育委員会研究推進校、平成 28・29 年度東京都小学校動物飼育推進校、平成 29・30 年度東京都持続可能な社会づくりに向けた教育推進校の指定を受けて、ESD の充実を日常的に推進している。

「育てたい力」より

「持続可能な社会の創り手」に必要な資質・能力とは

持続可能な社会づくりの構成概念(例)

- I 多様性 いろいろある
- II 相互性 関わりあっている
- III 有限性 限りがある
- IV 公平性 一人一人大切に
- V 連携性 力を合わせて
- VI 責任性 責任を担って

※国立教育政策研究所「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究(最終報告書)」より

「持続可能な社会の創り手」に必要な資質・能力とは

ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度(例)

- ① 批判的に考える力
- ② 未来像を予測して計画を立てる力
- ③ 多面的、総合的に考える力
- ④ コミュニケーションを行う力
- ⑤ 他者と協力する態度
- ⑥ つなぐを尊重する態度
- ⑦ 進んで参加する態度

※国立教育政策研究所「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究(最終報告書)」より

ESDを育むべき能力・態度

①本質を見抜く力	批判
②未来像を予測して計画を立てる力	未来
③多面的、総合的に考える力	多面
④コミュニケーションを行う力	協働
⑤よりよいものを創り出していく力	創造
⑥他者と協力する態度	協力
⑦つなぐを尊重する態度	つながり
⑧進んで参加する態度	参加

(2) 活動内容

- ・平成29年度に実施した各学年の研究授業を示す。
 - 1年 算数「どれがおおいかな」
 - 2年 生活科「いきものと なかよし」
 - 3年 理科「風のはたらき」*②
 - 4年 社会「大切な水」音楽「情景を想像し、曲の感じをつかんで歌おう」*③
 - 5年 総合的な学習の時間「育てよう 生かそう 私たちの稲」*④
 - 6年 算数「作ろう 私たちの 和給食」
- ・ホールスクールアプローチとしての取り組みを示す。
 - 1年 生活科「いきもの 大すき」 2年生活科「いきものと なかよし」*①
 - 2年 生活科「ぐんぐんそだて みんなのやさしい」
 - 6年 総合的な学習の時間「伝統をつなごう 金管バンド」
 - 委員会活動 アルミ缶やペットボトルキャップの回収
 - 大森第六中学校との連携活動 「服のカプロジェクト」
 - ボランティア活動 「幼稚園との読み聞かせ」

①育てたい力より **ESDの視点** 価値観「責任性」

体系的な思考力「批判」「未来」「参加」

1年 生活科「いきもの 大すき」 2年生活科「いきものと なかよし」

生活科「いきもの 大すき」「生きものと なかよし」では、獣医師と連携を図りモルモットの抱き方から季節に合った育て方、さらに飼育者としての心構えについて教えていただいた。また、子どもたちは、モルモットの死を通して動物飼育の難しさを知った。飼育で大事なことを調べたり試したりしながら、健康観察や快適な環境の必要性に気づき、命を守る活動を続けてきた。さらに、この動物飼育は2年生から1年生へ2学期末に引き継ぐことも毎年実施している。このように本単元では、自分の役割に責任をもって活動するESDの価値観のうちの「責任性」と、体系的な思考力の「ものごとに主体的に参加しようとする態度」を育む実践を行った。

②育てたい力より **ESDの視点** 価値観「相互性」

体系的な思考力「批判」「多面」

3年 理科「風のはたらき」

本時では、ESDの価値観のうちの「相互性」を意識して授業を組み立てた。そのために、教科書の単元の最終ページに紹介されていた風力発電の写真をきっかけとして、風力発電を教材として取り上げた。風力発電が、教室でもできそうなことを知り、豆電球の光り方が違う事象に出会い、光り方が違う要因は、風の強さではないかと考えた。

児童と共に作った問題は、「風が強くなると、豆電球をより明るく光らせることができるのだろうか。」であった。授業前は、エネルギーのことをまとまりがなく、切れ切れの見方をする児童が多かったが、本授業を通して、それぞれのエネルギーのつながりを理解し、様々なことと関連付けて考えることができるようになった。振り返りの時間を設定し、E S Dの体系的思考力の「多面的、総合的に考える力」を交流することができた。

③育てたい力より **E S Dの視点** 価値観「連携性」
体系的な思考力「創造」「協力」

4年 音楽「情景を想像し、曲の感じをつかんで歌おう」

はじめに「とんび」の歌詞を読み、そこから感じ取れる曲の感じをつかみ、次に旋律の特徴や音の強弱による変化を考えた。児童一人一人の考えや感じ方を持ち寄って、グループでの話し合い活動に取り組み、グループでこの曲のストーリーを考えさせた。そのストーリーを表現するためには、どんな工夫をすればいいのかを話し合い、いろいろ試しながら表現活動を行うことからE S Dの価値観のうちの「連携性」を意識させた。また、友達と共感し合った共通のイメージを思い浮かべながら、音の強弱や旋律の特徴を工夫することから体系的な思考力の「よりよいものを創り出していく力」を重視した学習に繋げることができた。

④育てたい力より **E S Dの視点** 価値観「相互性」
体系的な思考力「未来」「多面」「関連」

5年 総合的な学習の時間「育てよう 生かそう 私たちの稲」

本校では、7年ほど前から学区域にある洗足池の水田を借用して、田植えと稲刈りの体験を行っている。稲を育て、米を収穫し、藁を再利用する。これらの活動において、多くのゲストティーチャーと連携を深めている。この単元では、活動を通じて、E S Dの価値観のうちの「相互性」を育成しようと考えた。私たちの生活は自然や文化、人と関わり合っているという考え方に基づいている。そして、重点的に育成したい体系的な思考力を「未来像を予測して計画を立てる力」、「多面的・総合的に考える力」、「つながりを尊重する態度」定め、学習活動のいくつかの場面に位置付け実践できた。



① 2年 生活科「いきものとなかよし」



② 3年 理科「風のはたらき」



③ 4年 音楽「情景を想像し、曲の感じをつかんで歌おう」



④ 5年 総合的な学習の時間
「育てよう 生かそう 私たちの稲」

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項1-2, 2-1に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 問題解決能力の育成)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(有志による休日のボランティア活動)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

国語 1年上巻 かざぐるま 1年下巻 ともだち (光村図書)
国語 2年上巻 たんぼぼ 2年下巻 赤とんぼ (光村図書)
国語 3年上巻 わかば 3年下巻 あおぞら (光村図書)
国語 4年上巻 かがやき 4年下巻 はばたき (光村図書)
国語 5年 銀河 (光村図書)
国語 6年 創造 (光村図書)
新編 新しい社会 3.4年 上下巻 (東京書籍)
新編 新しい社会 5年 上下巻 (東京書籍)
新編 新しい社会 6年 上下巻 (東京書籍)
私たちの大田区 3年生 大田区教育委員会
私たちの大田区・東京都 4年生 大田区教育委員会
新編 新しい算数 1, 2, 3, 4, 5年 各学年上下巻 (東京書籍)
新編 新しい算数 6年(東京書籍)
みんなと学ぶ 小学校 理科 3, 4, 5, 6年 (学校図書)
せいかつ 上巻 みんなだいすき 下巻 みんなともだち (光村図書)
小学生の音楽4(4年生) 教育芸術社

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、全教科・領域をESDの視点から捉え直し、年間指導計画『ESDカレンダー』を作成した。日々の授業から持続可能な社会づくりのための能力・態度を身に付けさせ、年間を見通して持続可能な開発に関する価値観や体系的な思考力を育てている。



●教育活動のESDの観点での価値付け

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
教科等	国語 ※読書について「 読む 」の楽しさを伝える。読書習慣を身につけさせる。	国語「生き物はつながりの中で生きていく」の学習を通して、生き物の命の大切さを理解し、自然環境の大切さを伝える。	国語「みんなが生き生きと暮らすために」の学習を通して、多様な文化や価値観を尊重し、共生社会の大切さを伝える。	国語「みんなが生き生きと暮らすために」の学習を通して、多様な文化や価値観を尊重し、共生社会の大切さを伝える。	国語「みんなが生き生きと暮らすために」の学習を通して、多様な文化や価値観を尊重し、共生社会の大切さを伝える。	国語「みんなが生き生きと暮らすために」の学習を通して、多様な文化や価値観を尊重し、共生社会の大切さを伝える。	国語「みんなが生き生きと暮らすために」の学習を通して、多様な文化や価値観を尊重し、共生社会の大切さを伝える。	国語「みんなが生き生きと暮らすために」の学習を通して、多様な文化や価値観を尊重し、共生社会の大切さを伝える。	国語「みんなが生き生きと暮らすために」の学習を通して、多様な文化や価値観を尊重し、共生社会の大切さを伝える。	国語「みんなが生き生きと暮らすために」の学習を通して、多様な文化や価値観を尊重し、共生社会の大切さを伝える。	国語「みんなが生き生きと暮らすために」の学習を通して、多様な文化や価値観を尊重し、共生社会の大切さを伝える。	国語「みんなが生き生きと暮らすために」の学習を通して、多様な文化や価値観を尊重し、共生社会の大切さを伝える。	国語「みんなが生き生きと暮らすために」の学習を通して、多様な文化や価値観を尊重し、共生社会の大切さを伝える。
かがやき（総合的な学習の時間）	「世界ともだちプロジェクト」オンラインゲームを通して、異文化理解を深め、国際社会の大切さを伝える。	「世界ともだちプロジェクト」オンラインゲームを通して、異文化理解を深め、国際社会の大切さを伝える。	「世界ともだちプロジェクト」オンラインゲームを通して、異文化理解を深め、国際社会の大切さを伝える。	「世界ともだちプロジェクト」オンラインゲームを通して、異文化理解を深め、国際社会の大切さを伝える。	「世界ともだちプロジェクト」オンラインゲームを通して、異文化理解を深め、国際社会の大切さを伝える。	「世界ともだちプロジェクト」オンラインゲームを通して、異文化理解を深め、国際社会の大切さを伝える。	「世界ともだちプロジェクト」オンラインゲームを通して、異文化理解を深め、国際社会の大切さを伝える。	「世界ともだちプロジェクト」オンラインゲームを通して、異文化理解を深め、国際社会の大切さを伝える。	「世界ともだちプロジェクト」オンラインゲームを通して、異文化理解を深め、国際社会の大切さを伝える。	「世界ともだちプロジェクト」オンラインゲームを通して、異文化理解を深め、国際社会の大切さを伝える。	「世界ともだちプロジェクト」オンラインゲームを通して、異文化理解を深め、国際社会の大切さを伝える。	「世界ともだちプロジェクト」オンラインゲームを通して、異文化理解を深め、国際社会の大切さを伝える。	
道徳	「地球の恵み」の学習を通して、自然環境の大切さを理解し、持続可能な社会づくりの大切さを伝える。	「地球の恵み」の学習を通して、自然環境の大切さを理解し、持続可能な社会づくりの大切さを伝える。	「地球の恵み」の学習を通して、自然環境の大切さを理解し、持続可能な社会づくりの大切さを伝える。	「地球の恵み」の学習を通して、自然環境の大切さを理解し、持続可能な社会づくりの大切さを伝える。	「地球の恵み」の学習を通して、自然環境の大切さを理解し、持続可能な社会づくりの大切さを伝える。	「地球の恵み」の学習を通して、自然環境の大切さを理解し、持続可能な社会づくりの大切さを伝える。	「地球の恵み」の学習を通して、自然環境の大切さを理解し、持続可能な社会づくりの大切さを伝える。	「地球の恵み」の学習を通して、自然環境の大切さを理解し、持続可能な社会づくりの大切さを伝える。	「地球の恵み」の学習を通して、自然環境の大切さを理解し、持続可能な社会づくりの大切さを伝える。	「地球の恵み」の学習を通して、自然環境の大切さを理解し、持続可能な社会づくりの大切さを伝える。	「地球の恵み」の学習を通して、自然環境の大切さを理解し、持続可能な社会づくりの大切さを伝える。	「地球の恵み」の学習を通して、自然環境の大切さを理解し、持続可能な社会づくりの大切さを伝える。	
特別活動	運動会 学年として自分たちの力を発揮し、チームワークを大切にする。	運動会 学年として自分たちの力を発揮し、チームワークを大切にする。	運動会 学年として自分たちの力を発揮し、チームワークを大切にする。	運動会 学年として自分たちの力を発揮し、チームワークを大切にする。	運動会 学年として自分たちの力を発揮し、チームワークを大切にする。	運動会 学年として自分たちの力を発揮し、チームワークを大切にする。	運動会 学年として自分たちの力を発揮し、チームワークを大切にする。	運動会 学年として自分たちの力を発揮し、チームワークを大切にする。	運動会 学年として自分たちの力を発揮し、チームワークを大切にする。	運動会 学年として自分たちの力を発揮し、チームワークを大切にする。	運動会 学年として自分たちの力を発揮し、チームワークを大切にする。	運動会 学年として自分たちの力を発揮し、チームワークを大切にする。	
その他	金曜礼拝 心を落ち着かせ、感謝の気持ちを伝える。	金曜礼拝 心を落ち着かせ、感謝の気持ちを伝える。	金曜礼拝 心を落ち着かせ、感謝の気持ちを伝える。	金曜礼拝 心を落ち着かせ、感謝の気持ちを伝える。	金曜礼拝 心を落ち着かせ、感謝の気持ちを伝える。	金曜礼拝 心を落ち着かせ、感謝の気持ちを伝える。	金曜礼拝 心を落ち着かせ、感謝の気持ちを伝える。	金曜礼拝 心を落ち着かせ、感謝の気持ちを伝える。	金曜礼拝 心を落ち着かせ、感謝の気持ちを伝える。	金曜礼拝 心を落ち着かせ、感謝の気持ちを伝える。	金曜礼拝 心を落ち着かせ、感謝の気持ちを伝える。	金曜礼拝 心を落ち着かせ、感謝の気持ちを伝える。	
ねらい	本校におけるESDの教育のねらいは、持続可能な社会づくりに関する知識を身に付け、持続可能な社会づくりに必要な能力・態度を身に付けさせることである。教育活動を通じて、持続可能な開発に関する価値観や体系的な思考力を育て、持続可能な社会づくりに貢献させることである。												

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

「小動物（モルモット）の飼育」（第1・2学年）

小動物との触れ合いを通して、命のしくみや自然との関わりを学ばせ、命を育む責任感を育てている。生活科の時間に、毎週数人でグループをつくり、5匹のモルモットのケージの清掃をしたり獣医師と連携し遊んだりして触れ合いを深め、そうした活動を記録している。

「地域の高齢者との交流」（第2学年）

高齢者と接して、相互理解を深め、思いやりの心を育てている。生活科の時間に、地域の老人ホームを訪問し、歌を披露したり、ゲームを一緒に楽しんだりしている。

「食育」（全学年）

「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを受け、食育のテーマとして和食に注目し、企業と連携して各学年で設定された食品と和食のつながりについて学習した。今後さらに和食のよさを子供たちに伝えていく食育を重視していく。

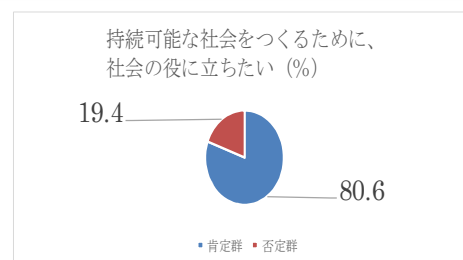
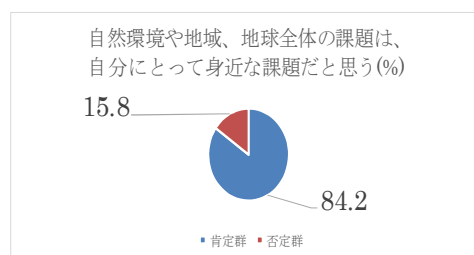
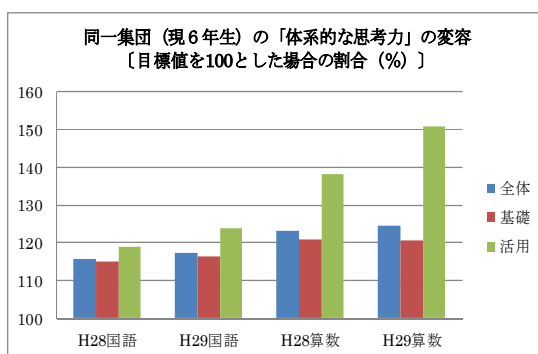
本校の教育活動を更に充実・発展させるとともに、地域との協力体制の構築のために、「スクールサポートあかまつ」（学校支援地域本部）を発足し、学習支援（家庭科や音楽、生活科や総合的な学習の時間、大田外国語活動等のTT支援）・課外活動支援（読み聞かせや夏休みの体験講座のゲストティチャー）・学校運営支援（図書室の整備や校内の装飾、花壇の手入れ、花育教室の手伝い、階段手すり塗装等）のボランティアが組織化され、教育活動の充実がより一層図られている。

④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

○児童の変容について

今年度、本校における大田区学習効果測定の結果は、4年生以上の全ての学年で、基礎力・活用力ともに目標値（期待正答率）を上回っている。また、「平成29年度持続可能な社会づくりに向けた教育推進校」に係るアンケート（第1回）からは、この2年間の取り組みにより持続発展可能な社会を構成するための関心や意欲の高さが読み取れる。（円グラフ）これらのことから、本研究を通して『価値観』と『体系的な思考力』の萌芽と伸長が見られた。（棒グラフ）



⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

保護者や地域にむけて、「ユネスコスクール通信」を発行し、本校の研究の概要や各学年のESDに関わる実践等について発信している。また、家庭への発信として、学年便りに「ESDの窓」を設け、各教科においてどのような価値観と体系的な思考力を育てようとしているかを、保護者に具体的に伝えるように努めている。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

「③学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。」で記載したように、学習支援・課外活動支援・学校運営支援のボランティアを組織化、NPO法人洗足池風致協会による稲の栽培と再利用の教授、ヒップファミリークラブや外国人留学生との交流を通じた国際理解教育を実践している。また、本校と一貫教育を進める大田区立大森第六中学校と生徒会・児童会活動の交流を通して、ユネスコスクールとして同じ目的、方向性の下で更なる連携を深めている。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

本校と一貫教育を進める大田区立大森第六中学校と生徒会・児童会活動の交流では、あいさつ運動、エコキャップ回収運動、古着回収運動、ボランティア清掃、コンポストの活用法等を通して、ユネスコスクールとしての連携を深められた。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

児童は、『価値観』や『体系的な思考力』を高めることができた。しかし、持続可能な社会の創り手を育成していくためには、これに加えて児童自身が価値観と体系的な思考力を関連付け、活用しながら自己を変容させていけるような指導が大切である。そのために、普段の学習の取り組みを ESD にかなっているか価値づけけることを行ったり、それぞれの授業の中で児童が主体的・体系的に学べるようなしなかけを作ったりできると、より深く研究できると考える。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 30 年度は、東京都持続可能な社会づくりに向けた教育推進校として、2 年目迎える。ESD を重視した授業により、「合意形成力+未来計画力+意欲+実践力」等を身に付けることが可能となる。これらの力は、「協力し工夫する児童の主体的な活動」や「問題解決的な学習+発表・発信」等によって身に付いていくものとする。

この問題解決的な学習において、児童の発想、思いや願いを具体的化できるように、学習内容の特徴に応じて価値観に触れられるような発問を行っていくことに努めたり、学習活動を通して児童が体系的な思考力を身に付けていく授業を目指していく。

1 学期 研究授業 1 回 指導案検討

夏季休業中 指導案完成

2 学期 研究発表会 全クラス授業公開

成果と課題をまとめる